

組織の活性化は教宣活動から



「紙の弾丸」であるニュースを発行しよう!

国労仙台

No. 2561
2009年8月20日
発行責任者 橋本 昭二
編集責任者 武田 昌仙

機関紙特集号

地方本部内ではこの数年、教宣活動が活性化し、機関紙を発行する機関が増加の傾向にあります。先駆けている機関に学びながら、教宣・機関紙活動を通じて組織の強化・拡大を図りましょう。

会社にコンプライアンス 言う資格なし!

「不正取水問題」と言ってもあまり深刻な感じがしませんが、信濃川発電所において、実はかなりあくどいことをやっていたようです。国交省に対して2度も虚偽の報告をしたことや、計器に細工をしていた他にも、違反となる工作物が250箇所以上設置されていたことが明らかになっています。そしていまだに、誰が、どのような動機で、指示したのかも明らかにされていません。地元の人の話では、「JRの幹部が謝罪に来たので、今後どうするのか」と



6月30日に「外注化に伴う出向者懇談会」を開き、出向後の職場実態等の交流を行いました。出向者からは「JRのときはキハの電気連結器は全検しか外さなかったが、委託になった後に要検も外すようになった。機動グループでやっていた煙草管もやるようになった」と

仕事きつい! 絶対的要員不足!

現場社員に対しては徹底的に追求するくせに、この犯罪行為に対しては、ずいぶんと緩い対応という「コンプライアンスの社員教育」などと責任を現場になすり付けるようなこの嫌らしさは何なんでしょう。

地方大会十月十八・十九日 組合員の声を大会に持ちよう!

と直外仕切りを中途半端なまま移行したために、5月1日以降にも、業務の委託が随時行われて、移行時点のままの要員数で業務量だけがどんどん増えていることとの報告。「TKKの若い人はガツガツやっている。昼休み時間が終わらないうちから作業を始める時もある。自分たちも負けたくないからやるようになる。体重が3kg減った。全検キハは立ちっぱなしで一服も容易にできない。一服時間も「コーヒーを飲むのは週に数回しかない」と仕事がついついの報告がありました。

福原さんが5年ぶりJRへ復帰!

この間、不当な出向延長も含めれば5年という長きに渡り東北交通機械に出向させられていた、当分会の福原さんに対し、仙台支社は2年繰り上げて新幹線総合車両センターへの復帰を命じ、7月1日付けで車体二科への配属となりました。みなさん承知の通り、福原さんは平成16年7月に新庄運転区から東北交通機械に出向となり、私たちと同じ台車科で働いてきました。出向終了の平成19年7月に希望を無視され1年間の延長、そして昨年の平成20年7月には、またもや本人の希望もそれまでの団交での確認事項も無視して更に3年間の出向発令が出されました。組合として支部・地方本部・東日本本部が一体となって、団交において以前確認した事項を無視している事、本人の意思に反した出向延長の発令は認められない事等を主張すると



共に、出向延長の理由とされた問題点についても、ひとつひとつ事実確認した上でクリアし、支社に対してその結果を突きつけ、きちんに対応するよう強く求めてきました。結果として支社は福原さんと産業医の面談の結果等を受け止め今回の発令となりました。福原さんは、「希望がやっと叶ったのはうれしいが、この間の支社の対応には怒りを通り過ぎて本当にあきれざるばかり。なぜ当たり前のことを当たり前前にもできないのか?最後の最後まで会社への不信と不満が残る。」と言っています。その反面「強制配転や出向のおかげで、仙台や新庄、そして幹総とあちこちに仲間が増えたので、その点については自分には有意義だった。」と福原さんらしい言葉も聞かれました。福原さんには5年間台車分会の仲間として各種動員や集会等に積極的に参加してもらい、運動の先頭に立ちて奮闘してもらいました。ありがとうございます。台車分会としては力強い仲間が一人減ってしまったので非常に寂しい限りではありますが、今後は運動分定でも持ち前のパワーで国労運動を牽引してほしいと思います。5年間お疲れ様でした。

「この度は、宮城県での物販オルグでお邪魔させていただきました。ご支援、ご協力を頂き誠に有難うございます。オルグに際しては至らない点、不手際などもありますが迷惑をおかけしたのではないかと思います。ご容赦いただきたいと思います。何時もお世話になりました。この度はまた多大なカンパを頂き、誠に有難うございます。カンパにつきましては闘争団の活動に大切に使用させていただきます。私どもの闘いも、一日も早い解決を」と言いつつ二十三年目となりましたが、裁判の闘いは、いよいよ最後の最高裁での闘いとなりました。「訴訟救助」も決定し、諸手続きを進めている段階ですが、他の鉄道運輸機構訴訟や国労訴訟、横浜人活訴訟、全動労訴訟の地裁、高裁での状況を見ながら模様で本格化するの



まだ先のようなです。また政治による解決の闘いは、六月までには何とか政府含めた動きを考えると、いまは、解散総選挙日程が入ってしまい、具体的な動きは選挙後の新たな政権下での攻防となりました。いずれにしてもここ何ヶ月かの間に行く末が決まってくるものと考えています。私たちも、再度闘う体制を点検、整備して重要局面の闘いに全力を挙げる覚悟です。闘いは、裁判闘争を含めて、いま暫く続くことになりませんが、引き続きの支援とご協力をお願い申し上げます。御礼いたします。

国労種内闘争団 団長 万城目 匠
仙総所支部 「団結」2008号より

やつぱりでたらめな再雇用!

① 出向先からの報告 江刺家

JR貨物東北ロジスティクスに出向を命じられて一ヶ月が過ぎました。この間、今回の再雇用が、本部・本社間の団交経過を無視したものであり、かつ公平・公正に行なわれていないと指摘してきましたが、このことがますます明らかになってきています。第一に、会社からは持っている資格で選ばれたと説明されましたが、7月1日

に初出勤したとき、宮城野事業所長に、この資格についてほとんど使用していないと経過を説明したところ、このあと社長に挨拶に行つたとき、所長自身が、社長に強く「これまで言ってきたように溶接とフォークの技術者を入れてくれ」と要請していました。社長も私のこれまでの業務内容を聞いて、「あ、これは重岡検修の方だったかな」と言っていました。

私が資格で選ばれたということがあったら、たぶんな説明だとわかりました。第二に、ここでは所長を含め24名が働いていますが、ほとんどの方がハローワークの紹介だそうなんです。その他には、JR貨物からの出向者が2名、JR東の再雇用者で出向者が2名(内1名が私です)で、この4名全員が国労です。JR内で最も多くの組合員がいる組合からは一人もきていません。なぜなのか、仕事が厳しいからというのでは公平・公正な再雇用ではありません。



第三に、土・日も業務があり、休日が一日単位でバラバラに入れられるため、なかなか連休がとれません。親の関係で、時々盛岡に

昇進基準(規定)の第四



仙総所支部組立「2008号より」

昇進差別

異常に低い国労組合員の試験合格率

一年で一番嫌な時期である。それは昇進・昇格試験の受験調査を行わなければならないからである。決して目立たないが、黙々と仕事をしている仲間が国労組合員というだけで、合格率が著しく低く、東労組組合員と圧倒的な等級の差をつけられている。

昇進の選考基準には、「社員」の昇進にあたっては試験を実施し、社員としての自覚、勤務意欲、職務態度、知識、技能、適格性、協調性、試験成績等の人事考へに基づき公平に判断して行う」とある。これを見る限り、ペーパーテストは選考基準の八つの内のひとつにすぎない。どの程度のウエイトを占めているか、会社が公表しないのでわからないが・・・。また、東労組員の管理者が我々の査定をしている状況では、当然合格率が低くなる想定される。この点では、「あっせん申請」の取組み強化が求められている。今回の受験調査の意見では、「今まで受験してきたが、合格しないので今回は受験しない。試験制度が適正か疑問を感じる。徒労の賭けだが先輩の意思を継いで受験する」などの意見があった。分会としては、本部方針に沿い、受験することで差別の実態を明らかにしていく方針としている。国労を脱退し東労組へ走った人が、確実に合格している実態を見るとき、やはり試験制度の公平性に疑問を持つのは私だけだろうか。このよつな状況のもとでも受験する仲間の頑張りにも感謝と敬意を表したい。



東北工務事務所分会 「ろばた」777号より

新採が国労に取られ 脱退工作? 配転?

今回、福島配属となった新規採用者Sさんは、4月26日、国労に加入。翌日、福島配属に国労・福島地区分会の山田副分会長・古川書記長が、S君加入を通告したら、慌てた配転が「総務助役に聞いてみる」と連絡をとった。その時からS君と連絡が取れなくなり、5月1日、S君は国労を脱退し、東労組加入となりました。通告後、S君の態度が急変したことを考えると、会社と東労組一体となった脱退工作が行われたのではないかと、この疑いも考えられます。

古川書記長を白石駅に配転!

新採Sさん問題の直後、5月19日付けで、古川書記長を白石蔵王駅(白石駅在動)へ配転してきています。残された国労・福島配属では、昨年12月以降、活性化の名のもとに5名の仲間が、本人希望・家庭状況に関係なく、一方的に配転させられています。6月にも改札担当のOさんが、郡山駅へ配転されています。

福島駅総務助役 南仙台へ異動!

6月1日付けで、朝日田総務助役が南仙台駅へ配転として人事異動がされています。南仙台駅は、名取駅の被管理駅で、日々社員2

名体制で泊り勤務をしています。また、名取駅には管理助役も配置されています。今回の異動は、組合に何の話もなく、突然、駅長のポストをつくり、そこへ人事異動しています。南仙台駅に、駅長は必要なのでしょつか? 今回の異動は、問題を起こした人を一時的に隠れさせる様にも見えるのですが?

やつぱり不自然? 会社姿勢に怒りが

総務助役が、新入社員に対して加入用紙を配布していた噂話が言われているが、もし本当の話だとすれば絶対に許せない。東労組と一体になった不当労働行為のなにもでもない。福島駅の配転攻撃は異常だ。今回などは、活動家の狙い撃ち・国労敵視そのものだろう。

労働問題、職場の声を大事にし、要求を掲げて闘っているのは国労だけだ。会社は、少数になった国労に、今でも警戒心をもっていることから明らかだ。若い人は、是非、国労に加入してもらいたい。

この異常な労働管理に対し、私たちは、国労組織への妨害と不当労働行為まがいの配転攻撃と受け止め、不当配転された国労福島地区分会の仲間と共に連帯し闘っていくことが求められています。

私たちは、日常の職場実態から具体的な要求を柱に、組織拡大にも怯むことなく

取組みを強化していかねればなりません。
岩沼駅連合分会 「いわぬま」6号より

不当配転を撤回せよ!

編集部より
 機関紙の掲載につきましては紙面の関係上、一部の機関紙の掲載にとどまりました。ご了承ください。

- 退職のお知らせ**
 7月31日
- 佐藤 勇一さん 仙宮運輸区分会
 - 高橋 正文さん 小牛田駅連合分会
 - 斎藤 博さん 福島地区分会(保線)
 - 後藤 恒美さん 郡山駅連合分会
 - 人見 文夫さん 貨物福島分会
 - 大橋 利明さん 郡工支部分会
 - 長い間お疲れ様でした